

若草幼稚園 園長

積み木は子どもたちの遊びの中で最もスタンダードなものだと思います。1対2対4のレンガ型の積み木こそが遊びの原点です。

若草幼稚園の積み木コーナーにはいつも積みかけの積み木があります。積み木のコーナーは片付けなくてもいいということになっています。明日、続きを積むためです。

まず、木の積み木は手触りがとてもいいのです。プラスチックのおもちゃのように冷たい感触ではありません。暖かくて気持ちが良いのです。そんな感触のよさは子どもたちの豊かな心や感性が発達していくためには大切なことです。

年中組の子どもたちは毎年なのですが上に上に積んでいきます。塔をつくるのです。手が届かなくなると自分のいすを持ってきます。ピアノのいすも持ってきます。最後にどうしようもなくなると保育者を呼びにきます。保育者は細心の注意で最後の何段かを積みます。天井まで届いたところで子どもたちは納得できて散っていきます。友だちや保育者と一緒に完結できた喜びがあるのでしょうか。

年長組になると積み木は横に広がっていきます。町ができて道路ができて牧場ができて西山公園ができてというふうに広がっていきます。やっぱり年長組はイメージをしっかりとって積んでいるなと感じます。その中でいろいろな物語がながれます。

Yちゃんがお城を造っていました。Kくんがその隣で高速道路を造っています。それぞれが自分の世界で自分のイメージに浸って黙々と積んでいます。お互いがそれぞれのイメージで広がっている世界が、気がついたら一つの積み木を担っているということも時々あることです。当たり前のように二人でにこにこ笑っています。

何もないところからイメージをしてそれを広げていく能力は子どもたちは本当は生まれたときからもっています。その想像力・創造力こそが生命力だし生活を広げていくことだと思っています。



1947年4月16日生まれ

会社員を経て、父より若草幼稚園を受け継ぎ、園長になり33年。「今の若草幼稚園が最もスタンダードな幼稚園」と自負する。

流水バンドのボーカルとギターを担当し、月1回、ライブハウスで活躍中！
～明日でいいことは今日はしない～ がモットー